

# 2016(平成 28)年、山種美術館は開館 50 周年を迎えます。

山種美術館は 1966(昭和 41) 年 7 月、東京・日本橋兜町に日本初の日本画専門美術館として開館しました。50 周年を迎える 2016 年を記念し、近代・現代日本画を中心とする当館所蔵品から、浮世絵や近世絵画を含む代表的なコレクションを厳選し、順次ご紹介する名品選、および他所蔵品を拝借して行う「奥村土牛—画業ひとすじ 100 年の歩み」展、「速水御舟の全貌」展、50 周年を機に再開する公募展「Seed 山種美術館 日本画アワード 2016」など、開館 50 周年を記念した特別展(全 7 展覧会)を開催するほか、年間を通して多彩なイベントを行う予定です。

## 館長あいさつ 山種美術館開館 50 周年を迎えて

山種美術館 館長 山崎妙子

山種美術館は、1966 年、日本初の日本画専門の美術館として開館いたしました。以来、50 年もの永きにわたり活動を続けることができたのは、ひとえに多くの方々のご支援、ご協力の賜物と存じ、心より感謝申し上げます。

当館は、創立者である祖父、山崎種二の「美術を通じた社会貢献」という理念のもと、皆様に喜んでいただける美術館を目指し、近代・現代日本画を中心とした美術品の収集・研究・公開・普及につとめてまいりました。50 周年という節目を機に、今後は 21 世紀のグローバル化した世界に向け、日本固有の財産である日本画の魅力を伝えていきたいと考えております。その試みとして、このたび、国籍や性別、年齢を問わず、世界のさまざまな人々に親しんでいただけるよう、新たにシンボルマークをつくりました。また、世界へ羽ばたく新世代の日本画家の発掘、育成をめざし、公募展「Seed 山種美術館 日本画アワード 2016」を実施いたします。

当館ではこれからも、日本画、そして日本文化の素晴らしさを世界に向けて発信するとともに、日本画を未来に引き継いでいきたいと思います。国内外の皆様にこれまで以上に楽しんでいただけるよう、多彩な活動を展開してまいります。



© Koike Norio 2009  
山種美術館外観

## 山種美術館沿革

山種美術館は、山種証券(現・SMBC フレンド証券)の創立者である山崎種二(1893-1983)が個人で集めたコレクションをもとに、1966 年 7 月、東京・日本橋兜町に国内初の日本画専門美術館として開館し、

2016 年には 50 周年を迎えます。種二是「絵は人柄である」という信念のもと、横山大觀(1868-1958)や上村松園(1875-1949)、川合玉堂(1873-1957)ら当時活躍していた画家と直接交流を深めながら作品を収集し、奥村土牛(1889-1990)のように、将来性があると信じた画家も支援しました。



二代目館長・山崎富治  
(《炎舞》搬入時)



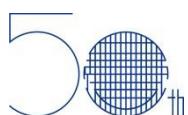
創立者・初代館長  
山崎種二  
(山種美術館開館記念式典)

その後も、二代目館長・山崎富治(1925-2014)とともに、旧安宅コレクションの速水御舟(1894-1935)作品を一括購入し、東山魁夷(1908-1999)らに作品制作を依頼するなど、さらなるコレクションの充実を図りました。一方で、若手日本画家を応援するために「山種美術館賞」を設け(1971~1997 年、隔年で実施)、受賞作品を買い上げ新たな才能の発掘と育成にも努めてきました。こうして収蔵された作品は現在約 1800 点を数えます。

1998 年、千代田区三番町への仮移転を経て、2009 年 10 月以降、渋谷区広尾に移転して新美術館をオープンし、これまでにさまざまなテーマによる展覧会を開催してまいりました。

## 山種コレクションについて

明治から現代までの近代・現代日本画を中心に、浮世絵、江戸絵画、洋画を含め約 1800 余点を所蔵。岩佐又兵衛《官女觀菊図》、椿椿山《久能山真景図》、竹内栖鳳《班猫》、村上華岳《裸婦図》、速水御舟《炎舞》《名樹散椿》の 6 点の重要文化財、酒井抱一《秋草鶴図》などの重要美術品を所蔵しています。また、120 点の御舟コレクションや、川合玉堂の作品も 70 点を数え、《鳴門》《醍醐》など戦後の院出品作の大半を含む、135 点の奥村土牛コレクションでも知られています。横山大觀《作右衛門の家》、《心神》、下村觀山《老松白藤》、上村松園《砧》、鎌木清方《伽羅》、小林古径《清姫》(8 面連作)、安田靄彦《出陣の舞》、前田青邨《蓮台寺の松陰》、川端龍子《鳴門》、村上華岳《裸婦図》、東山魁夷《年暮る》などは、近代日本画を語る上で重要な画家たちの作品です。



山種美術館 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-12-36

TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル 電話受付時間: 8:00 ~ 22:00)

公式ホームページ <http://www.yamatane-museum.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/yamatane-museum> / Twitter <https://twitter.com/yamatane-museum>

1 奥村土牛 一画業ひとすじ 100年のあゆみ— 2016年3月19日(土)～5月22日(日)

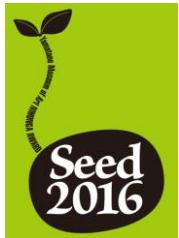


50周年記念展・第1弾として開催する本展では、当館所蔵の約1800点の中でも、最多数(135点)を有し、白眉の一つともいえる奥村土牛コレクションに焦点を当てる。土牛が画業の初期に描いた《甲州街道》、《雨趣》。さらに活躍の場であった院展への出品作を中心に《雪の山》、《城》、《浄心》、《門》、《吉野》。そして代表作であり、お客様からの高い人気を誇る《醍醐》、《鳴門》などを中心に展示。土牛100年の足跡をたどり、その画業を紹介する。

奥村土牛《醍醐》1972(昭和47)年



奥村土牛《鳴門》1959(昭和34)年



2 Seed 山種美術館日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—  
2016年5月31日(火)～6月26日(日)

1966(昭和41)年に開館した山種美術館では、1971(昭和46)年から1997(平成9)年までの隔年14回にわたり、日本画の奨励・普及活動の一環として「山種美術館賞」を開催し、新人の登竜門として注目を集めていた。創立50周年を迎える2016年、当館ではかつての「山種美術館賞」の趣旨を継承しつつ、現代に合う形の公募展として再開する。「山種美術館賞」から通算15回目となるこのたびの公募展は、『Seed 山種美術館 日本画アワード』と命名し、これから時代にふさわしい、日本画の新たな創造に努める優秀な画家の発掘と育成を目指す。



過去の山種美術館賞選考の様子

3 山種コレクション名品選 I

江戸絵画への視線 —岩佐又兵衛から江戸琳派へ—  
2016年7月2日(土)～8月21日(日)



当館所蔵の江戸絵画を一挙公開。重要文化財・岩佐又兵衛《官女観菊図》、椿椿山《久能山真景図》や重要美術品・酒井抱一《秋草鶴図》、作者不詳《竹垣紅白梅椿図》などをはじめ、伊藤若冲《伏見人形図》、本阿弥光悦、俵屋宗達、鈴木其一などの琳派作品、狩野派、円山四条派など各流派の優品を展示。

岩佐又兵衛《官女観菊図》  
【重要文化財】17世紀(江戸時代)

4 山種コレクション名品選 II 浮世絵 六大絵師の競演

—春信・清長・歌麿・写楽・北斎・広重—  
2016年8月27日(土)～9月29日(木)



当館が所蔵する、誰もが知る六代絵師の浮世絵を一堂に展示する。歌川広重の代表作である保永堂版《東海道五拾三次》全点出品をはじめ、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎保存状態がよく、専門家の間でも高く評価される名品を展示。

東洲斎写楽《二代目嵐龍藏の金貸石部金吉》  
1794(寛政6)年

5 速水御舟の全貌 —日本画の破壊と創造— 2016年10月8日(土)～12月4日(日)



速水御舟《炎舞》  
【重要文化財】  
1925(大正14)年

山種コレクションの中でも最もよく知られており、美術館の顔ともいえる速水御舟にスポットを当て、重要文化財《炎舞》や《名樹散椿》、《翠苔綠芝》、《牡丹花(墨牡丹)》など、当館所蔵の速水御舟の作品をはじめ、他所蔵先の作品も合わせてその画業の初期から晩年にいたる軌跡をたどる展覧会を開催する。若くしてこの世を去った速水御舟は、40年という短い人生の中で、一つのところに留まらず、生涯を通して新たな表現に挑み続けた画家。松本楓湖のもとで研鑽を積んだ修業時代から、兄弟子・今村紫紅に感化された時代、そして洋画家・岸田劉生や西洋画、宋代院体花鳥画などの影響から生まれた細密描写の時代、代表作《炎舞》で到達した幻想的かつ装飾的な表現の時代、さらに渡欧体験による人体表現への関心から晩年の水墨表現まで、画家・速水御舟の各時代の代表作品を展示。その画業の全貌を紹介し、不断の挑戦と研究の成果を振り返る。



速水御舟《名樹散椿》【重要文化財】1929(昭和4)年

6 山種コレクション名品選 III 日本画の教科書 京都編  
—栖鳳、松園から平八郎、竹喬へ—  
2016年12月10日(土)～2017年2月5日(日)



竹内栖鳳《班猫》  
【重要文化財】1924(大正13)年

当館所蔵の東京画壇と京都画壇の代表作を紹介する展覧会の第1弾「京都編」。近代京都画壇の重鎮・竹内栖鳳から、美人画で人気を博した上村松園、さらに福田平八郎、小野竹喬まで、近代・現代の京都画壇の作品を展示。

7 山種コレクション名品選 IV 日本画の教科書 東京編  
—大観、春草から土牛、魁夷へ—  
2017年2月16日(木)～4月16日(日)



「京都編」に続く「日本画の教科書」第2弾。日本美術院を代表する日本画家・橋本雅邦、横山大観、下村寒山、菱田春草、その第2世代である前田青邨、安田靄彦、小林古径、速水御舟、奥村土牛、東山魁夷まで、東京画壇の歩みをたどる展覧会。

横山大観《心神》  
1952(昭和27)年